

松原望『入門確率過程』

第1刷 正誤表

2007年4月10日 現在

更新	ページ	位置	誤	正
	p.39	下2,7行目	nCp	nCx
	p.39	下4行目	確率	確立
	p.53	例題中上3行目	内	の外
	p.62	4行目	確率過程	【太字(ゴシック体)とする】
	p.71	最終行	ϕ (ファイ)	ρ (ロー)
	p.78	4行目	+	,
	p.99	5行目	2π	$\sqrt{2\pi}$
4/10	p.99	下5行目	$\int_{-\infty}^a \int_{-\infty}^b \dots$	$\int_{-\infty}^b \int_{-\infty}^a \dots$
	p.105	下2(左辺)	() =) =
	p.87	(i), (ii), (iii) 左辺	【脱落】	【*を挿入】
	p.107	2行目	$(2\pi \Sigma)^{p/2}$	$(2\pi)^{p/2} \Sigma ^{1/2}$
	p.114	1行目	$N(n(p-q), npq)$	$N(n(p-q), 4npq)$
	p.114	2,3行目	60	240
	p.114	3行目	Φ 以下	$\Phi(-(\sqrt{15})/2) = 0.026404$
4/10	p.117	図6.3.2一番右下の枝	3	-3
4/10	p.117	表6.3.2	(X_1+X_2, X_3)	(X_1+X_2, X_1)
4/10	p.117	4行目	コックスールビンスタイン	コックスーロスールビンスタイン
	p.119	7行目	かつ同一分布に従い	【削除】
	p.119	下8行目	E	【削除】
	p.119	最終行	(5.4.12)	(5.4.13)
	p.121	17行目	$P(\dots) = 0$	$P(\dots) = 1$
	p.124	下8行目	X_i	X_1
	p.128	4行目		「一定符号の連続をリード(lead)という」と追加。
	p.143	8行目	【次行に追加】	なお、121ページの「0への無限回復帰」の証明は補題後半を用い

				るが、高度のため[16]などを参照のこと。
	p.145	3行目	U (最初)	ε
	p.145	下3行目	以下	より少ない個数
	p.145	下3行目	が必要	より少数
	p.149	(7.6.19) 式	$\rightarrow \mu$	$-\mu$
4/10	p.168	下5行目	$1 + \frac{1}{2!} + \frac{1}{3!} \dots$	$1 + 1 + \frac{1}{2!} + \frac{1}{3!} \dots$
4/10	p.168	下4行目	$= 1 + \frac{1}{2} + \frac{1}{6} \dots$	$= 1 + 1 + \frac{1}{2} + \frac{1}{6} \dots$
	p.173	全頁	n	N (正整数)
	p.174	1行目	n	N (正整数)
	p.178	15行目	(c)	(d)
4/10	p.179	(8.3.3)	P (全ての t において,...)	全ての t において、 P (...)
4/10	p.187	下5行目	$X(t)$	$ X(t) $
4/10	p.188	(2)	$\int_x^\infty \frac{1}{\sqrt{2\pi}} e^{-\frac{x^2}{2}} dx$	$\int_x^\infty \frac{1}{\sqrt{2\pi}} e^{-\frac{y^2}{2}} dy$
	p.190	10行目	(\Leftrightarrow)	\Leftrightarrow
	p.199	(9.4.10) 式	$x dF(x)$	$F(x) dF(x)$
	p.200	(9.4.12) 式	$x^2 dF(x)$	$(F(x))^2 dF(x)$
4/10	p.201	(9.4.18)前式	$E((W(t))^2 F_t) = E(W(t))^2$	$E((W(t))^2 F_t) = W(t)^2$
	p.202	下8行目	(9.4.9), (9.4.12)	(9.4.11), (9.4.14)
4/10	p.209	(9.8.4)	$W(s)ds + sW(s)$	$W(s)ds + sdW(s)$
	p.210	下11行目	確率微分方程式	【太字(ゴシック体)とする】
	p.211	2行目		「(9.8.9) もマルチンゲールで、指数マルチンゲールといわれる。」と追加。
	p.211	2行目	指数マルチンゲール	【太字(ゴシック体)とする】
	p.214	1行目		「計算は p.57 のモーメント母関数の結果を用いる」と追加。
	p.224	図 10.4.1	【移動】	10.4 節最後へ
4/10	p.224	(10.4.7)	$d\mathbf{Y}(s) = \alpha(s) + \dots$	$d\mathbf{Y}(s) = \alpha(s)ds + \dots$
4/10	p.231	10行目	…だから	「(10.7.4), (10.7.6) に (8.6.3), (9.3.5) を応用して」を追加
4/10	p.231	11行目	$E_Q(\bar{\mathbf{X}}(T)) = E_Q(\bar{\mathbf{X}}(0)) = 0$	$E_Q(V^\theta(T)) = V^\theta(0) = 0$

4/10	p.231	12行目	これから…である。	(削除)
	p.242	5行目	$e \cdots \cdots]$	$f(e \cdots \cdots)]$
	p.242	(10.14.16)	$k(t)$ x_1 が $f($ の前	$k(T)$ x_1 は $f($ の直後
	p.243	6行目	$+(\cdots)$ の位置(高さ)	y の直後同列で(指数関数に含まれる)
	p.243	8行目	最後の)の位置)は x_1/K の直後へ
	p.243	10行目	前の積分 dy の前の T	上付きを解除
	p.248		【参考文献の次行】	*追加はウェブサイト(=>目次最終ページ)
	p.251	サ行		「指数マルチンゲール exponential martingale 211」と追加。